

タイトル	中川先生を送る言葉
著者	徳永, 良次; TOKUNAGA, Yoshitsugu
引用	北海学園大学人文論集(68): 33-35
発行日	2020-03-31

中川先生を送る言葉

徳 永 良 次

北海学園大学人文学部創設以来のスタッフである中川かず子先生が、今年度で退職されます。平成5年（1993年）4月に「新人文主義」を掲げ、また北海道の私立大学としては初の日本語教員養成課程の開設から運営に至るまで先頭に立って活躍してこられた経歴と、先生が残されたさまざまな足跡を披露するには、私のような浅学では力不足と言わざるを得ません。しかしながら、同じ日本語担当教員であり、かつ、人文学部開設以来勤務している同僚が他にいない以上、僭越ながら日本文化学科を代表して先生の経歴を披瀝させていただくとともに送別のことばを述べたいと思います。

中川かず子先生は、ロンドン大学大学院教育学研究科修士課程応用言語学専攻を修了され、その在学中からロンドン大学等で日本語講師を兼務されていました。帰国後は北海道大学留学生センターなどで兼任日本語講師として、日本語教育科目を担当され、平成4年に北海学園大学教養部教授として着任されました。翌、平成5年から北海学園大学に出来た新学部である人文学部日本文化学科教授として、こんにちまで28年間勤務されていらっしゃいます。

先生の研究テーマは大きく言って「日本語教育」と「外国人による日本語研究」です。前者は、国内外における日本語教育の内容と方法に関して、その教育法、習得の理論や要因を分析し、それを応用した教材開発・適切な教授法・日本語教員養成などへと発展させていくというものです。また、後者の研究は、近代以降の西洋人による日本語教育史ですが、ヘボン、ブラウン、チェンバレンらを始めとする、江戸時代後期以降の外国人による日本語研究を具体的な資料にもとづいて研究したものです。中川先生は、

この研究を実際の教育面においても十分に活用され、まさに生きた教育を実践されてきました。これらの成果は、単著2冊をはじめ、この10年においても学内外の紀要などに10編、それ以前においては20編以上の論文として結実しています。

学部教育においては、日本語教授法を始めとする専門教育科目、日本文化専門演習などの演習科目を数多くご担当になり、その上、大学院では修士課程の日本語研究特殊講義・演習、博士後期課程の日本語・思想文化論文指導特殊演習などを担当され、先の研究を十分に活かした日本語教育・教授法についての講義・演習を展開するなど多忙を極めておられます。それだけでも敬服するのに、ボランティアとして学内外の日本語教育に関わる勉強会や組織の運営、個別の学生に対する丁寧な指導やアドバイスを欠かすことなく実施され、これに薫陶を受けた多くの学生が国内外の日本語教師として実際の教育に携わっています。この活躍は人文学部のみならず北海学園大学全学部にわたっており、先生の本学（本学部）の教育・研究における多彩さを物語るものです。

これだけでも通常の間人なら音を上げるころですが、平成8年の機関長選挙において北海学園大学付属図書館長に選出され、本学の図書館を巡る変革期において図書館長として多大な貢献をされてきました。また、中川先生のライフワークとも言える日本語教員養成課程においては、その立ち上げから運営などで中心的存在として活躍され、現在の日本語教員養成課程を軌道に乗せた功績は極めて大なるものと言えます。このほか、学外の社会的活動として、NHK教育テレビ日本語講座制作委員、文化庁委嘱大学教員養成課程教育内容検討委員をはじめ、北海道国際化推進委員、北海道日本語教育ネットワーク代表など様々な委員を努めておられ、まさに八面六臂の働きぶりをずっと続けていらっしゃいます。ご退職を機に少しゆっくりされるのも良いのではとも思いますが、先生の他人を引きつける人望とご性格を考えればそうも行かないであろう事は想像に難くないと思われます。

このようにお忙しい先生ですので、私が中川先生のプライベートを知る

ことはほとんど（と言うか全く）ありません。ただ、人文学部開設当初2年間は、直接担当する学生がおらず（教養課程が厳然として存在していた時代でした）、季節の折々に教員同士で親睦会を開いたり、時には、日本文化学科の教員のマンションでホームパーティーを開くこともありました。そのような時にも、中川先生が日本人教員・外国人教員まったく区別することなく立ち回り、先生を中心に楽しい会話の花を咲かせていたのを鮮明に記憶しております。

先生が退職されることで、大学の日本語教育に関わる大きな柱がなくなってしまう。残された私たちスタッフと、新たに着任予定の新任の先生方でこれまで先生が着実にこなしてきた数え切れないほどの教育・研究・業務をスムーズにこなしていけるのか、甚だ心もとない思いでいっぱい。中川先生、これからも人文学部と日本語教員養成課程についてご相談やご助言をいただくことがあると思われます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願いして私からの送る言葉とさせていただきます。

